

風景を彩る 光のアトリエ



コンセプト

最近、耕作放棄地などがメガソーラー（太陽光発電所）として利用されている風景をよく目にする。メガソーラーは火力や原子力発電所に比べてメンテナンスが容易なため、地球温暖化対策やエネルギー政策として近年注目されはじめている。しかし、住み慣れた自分たちの街の風景にメガソーラーという風土や文化、歴史など何の関連性もない要素が入り込むことに、私は違和感を覚える。

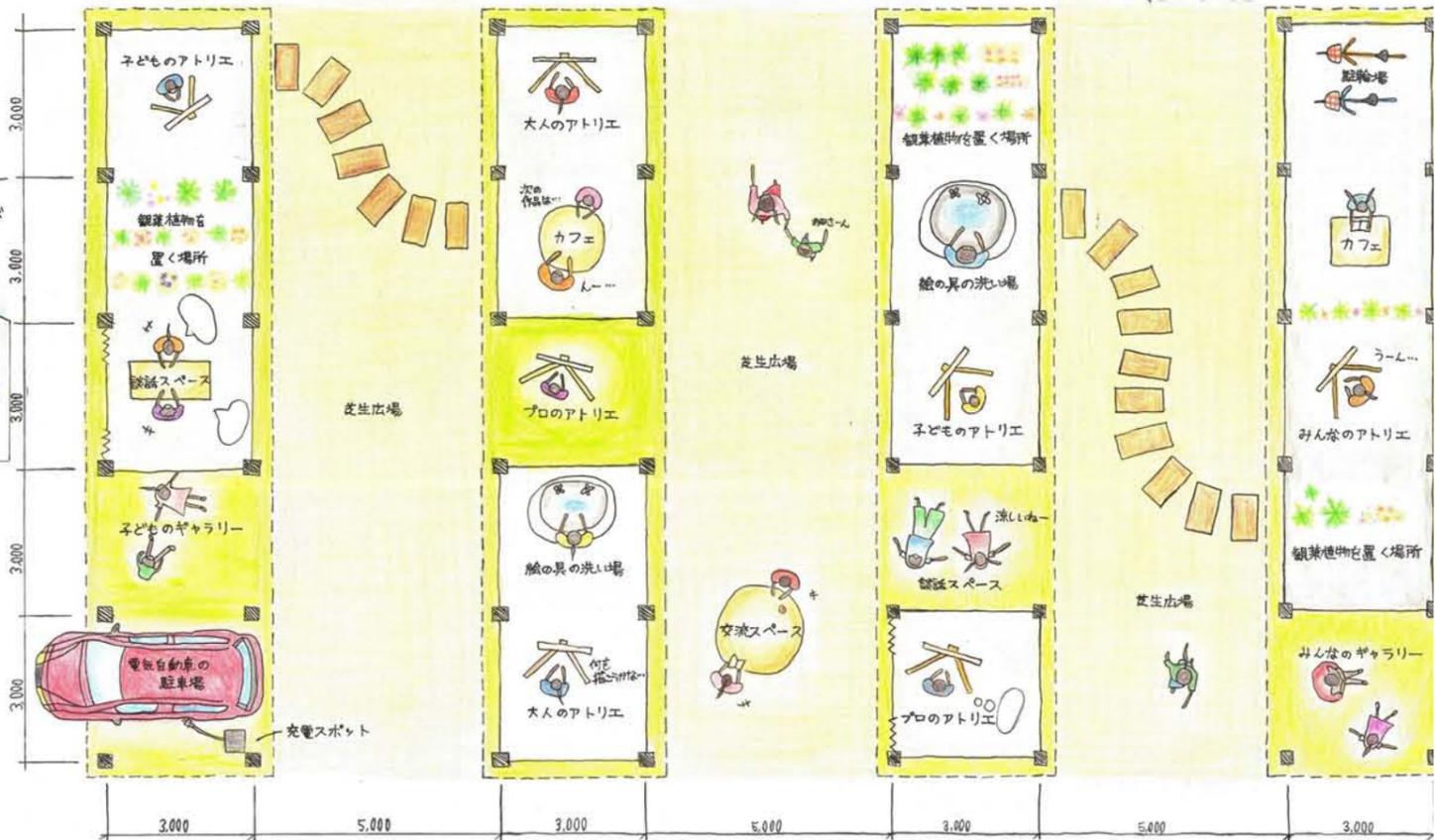
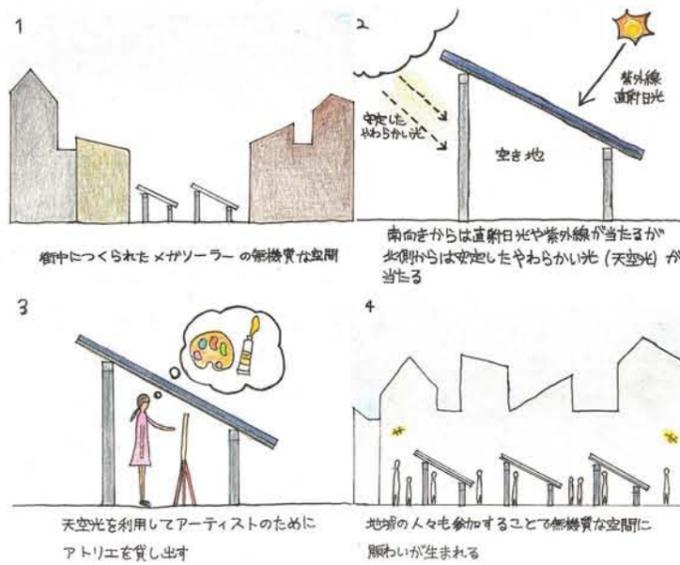
南向きに青紫色のパネルが、北側にはパネルを支えるためのむき出しの鉄骨が整然と並び、無味乾燥な風景が広がっているように感じる。

この風景を変えたいと思った。

メガソーラーのパネルは太陽光に向けて南向きに勾配をつけて設置されているため、その下には使われていない空間が存在している。この空間は直射日光や紫外線が差し込むことはない。そのかわり北側から安定した天光をパネルの下に導くことができる。この採光の性質を利用して、アトリエやギャラリーをつくり出すのが私の提案である。

パネルの下をアーティストのためのアトリエやギャラリーとして貸し出すことで賑やかな新しい空間が生まれる。鉄骨の柱スパンを利用して3m×3mのアトリエ空間を設け、個人のスペースをつくるためにカーテンで仕切りをつけたり、植物を置くことで境界線をつくったりする。またパネル下に駐輪場や駐車場などをつくり、電気自動車（EV）や電動バイクの充電スポットを設けることで、より環境に配慮しつつそれらを活かしながら生活できる空間となる。更にカフェスペースでは、アーティスト同士や地域の人々も巻き込んで作品について語り合うことで新たな関係を築き、次の作品への創作意欲や原動力を生み出す。

アーティストの創作活動がパネルの下に彩りを与え、そして地域の住民もそこに参加していくことで街に賑わいをもたらす。そんなアートによって新しい風景が広がる場所になることを目指した。



立面図 1:100

平面図 1:100